

# 児玉晃の自画像

老年期。年々違っていく「私の体」を「絵」で見つめ続けた自画像群。  
深刻さとおかしみが入り混じる、そのふしぎな生命の記録は、年老いた「母」を描くことから始まった。

## 3 | 15 火 - 27 日

9:00 - 17:00 (最終入場は16:30まで) 休館日: 3 | 22 火



[コンポジション十] 2005年 油彩、キャンバス 1620×1120cm

## 3 | 19 土

14:00 - 15:30

ギャラリートーク

### 「児玉 晃を語る」

児玉美子(児玉晃夫人)

大倉 宏(美術評論家)

佐藤紀夫(盛岡市中央公民館学芸員)

会場: 盛岡市中央公民館 企画展示室

参加無料(直接会場へお越しください)

児玉 晃(こたま あきら)

1930年岩手県北上市生まれ。51〜53年岩手県立美術工芸学校、同盛岡短大美術工芸科で洋画を学ぶ。林武、松本健介に惹かれ影響を受ける。54年東京に転居し、盛岡で知遇を得た深沢紅子の紹介で財団法人日本色彩研究所に入所。55年から自由美術協会に出品。81年「人物」が同展で和賞受賞。83年アトピー性湿疹患部腫瘍(チラーラ・ストラス総長賞)の診断を受け、2010年まで10回ほど入院をくり返す閉居生活が始まる。この年から制作を始めた自画像が最後には40点以上に、色彩研究への貢献が評価され95年藍綬褒章、01年勲五等双光旭日章を受章。87年色彩研究所を退任後は多摩美術大学、女子美術大学、長岡造形大学等で講師を務める。東京での個展のほか、郷里北上市の晃の館で二人展(03年)、新潟でも新潟絵屋(03, 04年)、画廊Full Moon(04年)で2人展・個展を発表。2011年1月31日脳梗塞のため死去、81歳。アトピーでの療養では沢山の自画像が撮られた。2014年画廊750人のわたし。児玉晃の自画像展刊行。同年砂丘館(新潟市)にて画廊刊行記念「50人のわたし。児玉晃の自画像展」開催。2015年ギャラリミハラヤ(東京銀座)にて「わたしの老・病・死。児玉晃の自画像展」開催。



[母・澄101歳の坐像] 1998年 油彩、キャンバス 1480×99.5cm 北上市蔵

### 盛岡市中央公民館 企画展示室

020-0013 岩手県盛岡市愛宕町14番1号

電話019-654-5366 / 019-651-4111 (内線5225)

FAX 019-653-3505

e-mail chuo.ph@city.morioka.iwate.jp

主催: 児玉晃の自画像展実行委員会 / 共催: 盛岡市教育委員会 / 協力: 砂丘館・認定NPO法人新潟絵屋



バス 盛岡駅発松岡山岸線(松岡ニュータウン行き) 中央公民館前下車(盛岡駅から約15分)

タクシー 盛岡駅から約10分

徒歩 盛岡市役所・岩手県庁から約15分 盛岡バスセンターから約20分

\*会場の駐車場は駐車台数に限りがあり、利用いただけない可能性があります。また近隣に民間のパーキングもありません。できるだけ公共交通等をご利用下さい。